

令和6年度 学校関係者評価報告書

学校法人 あおば学園
認定こども園 あおば幼稚園

- 1、本園の教育目標
 - ・自ら見る・聴く
 - ・自ら考える・感じる
 - ・自ら行動する

- 2、本年度重点的に取り組む目標・計画
 - ◎様々な事柄に興味を持ち幼児を育てる
 - ◎相手の気持ちを考えながら言葉で伝えあおうとすることを大切に思える幼児を育てる

- 3、評価項目の達成及び取り組み状況

重点 目標	評価 項目	評価指標及び評価結果					総括 評価	コメント、評価結果に関する 説明・意見等		
		基準	取組 結果	基準	成果 指標	成果 評価				
様々な事柄に興味を持つ幼児を育てる	園内外の季節の 変化に気づく	4	季節の変化をより広く知るために園外保育を充実させる	3.0	4	幼児自ら、季節の変化に気づき子どもたち同士で感じたことを共有し合おうとする	3.5	B ・保育者は行事に際して季節に応じた言葉かけを心掛けるようになってきたが、教材や環境設定などに関してはクラスによってはもう少し工夫を必要と感じることがあった。 ・園外保育は充実できなかったため、次年度は園外保育を活用して自然に親しみ季節の変化に気づけるようになって欲しい。		
		3	図鑑やイラストなどを用いて幼児の興味がより深まるようにする		3	幼児自ら季節の変化に気づき、気づいたことを自ら自由に表現する				
		2	園内にある環境をきっかけにして幼児が季節の変化に気づけるような会話をする		2	園内にある、木や花虫の種類の変化に幼児自ら気づく				
		1	幼児との会話の中で、教師が体験したことを言葉で表現する		1	暑い、寒いを感じられるようになる				
	感じられる環境を工夫する	地域とのつながりを	4	地域の存在を通して活動を充実させる	3.5	4	地域とのつながりを通して活動に対する好奇心が高まる		3.0	B ・来客者や、課外教室の先生に対して幼児自ら挨拶ができるようになった。 ・地域とのかわりについては、もう少し充実させることができたが、計画の見返しが必要だと感じられたため次年度に見直しを図りたい
			3	園外保育を通して地域の人たちの存在を伝えていく		3	身近な地域に興味を持ち教師や友達に伝えようとする			
			2	教師自ら来客者や園外の人にあいさつをすることで地域の存在に気づけるようにする		2	幼児自ら来客者や園外の方々にも挨拶をするようになる			
			1	教師自らが笑顔で挨拶をする		1	幼児が教師やともだちにあいさつをするようになる			

重点 目標	評価 項目	評価指標及び評価結果					総括 評価	コメント、評価結果に関する 説明・意見等	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標			成果 評価
相手の気持ちを考えながら言葉で伝えあおうとする 大切に思える幼児を育てる	相手の気持ちを考えて 伝えること	4	幼児の優しい気持ちが表現できるようにその場に 適した言葉を掛ける	3.0	4	相手の気持ちを考えた言葉が使えるようになる	3.0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進級当初と比べると言葉による伝え合いが増えたように感じる。 必要に応じて教師が幼児の気持ちを代弁したり仲介に入ったりすることはあるが、相手の思いに耳を傾けようとする姿が幼児には見られていた。 ・幼児の気持ちに寄り添う事で、自分の気持ちを素直に表現できる環境は引き続き維持できるようにしたい
		3	幼児の気持ちに寄り添いながら相手の気持ちも伝えていく		3	教師や友達の言葉に耳を傾けようとする			
		2	幼児の気持ちに寄り添う		2	教師や友達の思いを受けとめようとする			
		1	そのままの幼児の思いを受け入れる		1	自分の思いのままの言葉で表現する			
	幼児一人ひとりの良さを 認められる環境作り	1	幼児一人ひとりの良さを見つけ認めていくように声をかける	3.5	4	幼児同士が互いの良さを認め合う言葉が自然と出るようになった	3.6	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が幼児の良さを認める言葉かけをすることで幼児自身が、他児を認めたり、褒めあったりする姿が見ることが増えた。 ・幼児が自信をもって行動できるように今後も日々の保育を深めて務めていきたい。
		1	教師が幼児の気づきに共感しながら相手を認めてあげられるような言葉を掛ける		3	友達や教師と関わる中で相手の良さに気づく			
		1	教師が自ら相手の良さを認めるような言葉を掛ける		2	友達や教師と関わる中で興味を持ったことを言葉で表現する			
		1	友達と関わるのが楽しいと思える活動をする		1	友達や教師の言葉に興味を持つ			

4、今後の取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	いのちの教育を充実させる	いのちの大切さや自らを守る行動がとれることの必要性が身につくように、幼児の興味、関心を大切にして保育計画を立てる
2	職員間での子どもの姿の受け止め方の違いによる認識のずれを無くすような情報共有に努める	保育者同士の連携を図るため、園内での公開保育の日を設ける等園内研修を充実させる

5、学校関係者の評価

先生も保護者もよく交流できていて、子どもを預ける為の第一条件である信頼関係が築かれている。園児の性格を尊重し、その成長を温かく見守ってくださるので画一的でなく、個性溢れる園児が多い印象を受ける。その中で、この時期にしか得ることのできない豊かな感性を身につけていくであろうと考えられる。また、卒園して高校生になっても園児が運動会のお手伝いに来るなど、園児たちも園長をはじめ、先生方と信頼関係が結べているように思う。大きな幼稚園ではないが、子ども一人一人と向き合っているからこそその良さがあるように思う。

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

委員会実施日

令和7年3月3日